

奈良・人と自然の会

第9回 東海自然歩道観察会

平成15年5月7日(水)

始めまして！ 4月に入会させて頂きましたシニア大3期 けいはんな
学研都市在住の水田美美子です。[NHK特別番組～21世紀に残したい
日本の風景～全国第7位の 女人高野「室生寺」。河鹿やホトギスの声を
聞きながら石楠花が咲き競う…]と[6キロの楽々コース]といううたい文句”
に

惹かれて参加しました。前夜の天気予報で雨を覚悟していましたが見事(?)に
外れて好天気で(午後少し小雨)24名 参加。パンフレットには「伊勢街道
大野宿から門森(カドモリ)峠を越える東海自然歩道。その石畳みを歩くと
今でも里山風景を楽しむことができる」と書いてありましたが 前夜の雨で
つるつるした道を滑らないように 足元ばかりを見つめながら歩くのが精一杯で
「周りの景色を楽しむ！」という余裕はありませんでした。

でもそれはそれなりに 今となっては楽しかった想いが残ります。

“ふーふー”“ブーブー”言いながら歩きましたが「還暦すぎた山歩き1年生の
私でも歩けた」という自信(?)がチョッピリつきました。あんなデコボコ道
何十年も歩いたことがないように思います。

学生時代 英語の時間に習った「walking dictionary」という単語がぴったりの
博学な方々。帰宅後 2冊の本で探しても見つからないような植物の名前
どこで覚えられたのかしら??

植物の報告は 当日担当のスタッフの方からあるようですので省略します。
マムシ草から松 枯れ・魔崖仏・如来の手の印相・龍穴神社の柿(コケラ)葺きまで
教えて頂いて 眠りつつある脳細胞も活性化し 有意義な1日でした。
スタッフの皆様 ほんとうにありがとうございました。



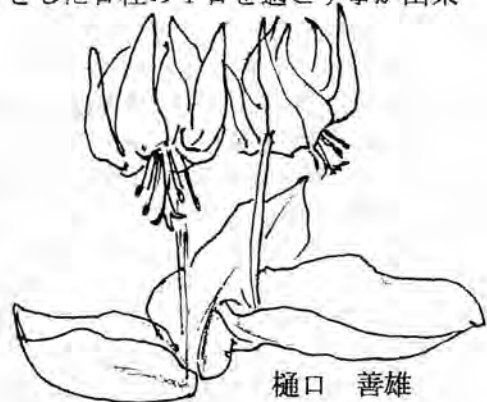
水田 美美子

大和葛城山を訪ねて

山田 洋子

家を出る時は日が射していたのに、ロープウェイを降りると今にも雨が降りそうな空模様、そんな中、最初に迎えてくれたのは小鳥達のさえずり、鶯は上手に誇らしげに鳴いています。今日の目的はカタクリの花とショウジョウバカマとの出会いです。曇り空の下でカタクリは精一杯花びらを反り返して、愛らしい姿を見せてくれました。でも山の斜面の中にアマカメラマンが幾人も入り込み写真を撮るのに夢中です。気持ちにはわかるけど足元のカタクリが心配です。しかし、私も知らず知らずに同じような事をどこかでしているかもと思ってみたり、これからは気をつけなくては・・・次に出合ったショウジョウバカマの群生はみごとです。こんなに沢山見たのは初めてです。名の由来も面白く、花の赤はお酒の好きな狸々、葉を袴に見立てたとの事華やかな花ではないけれど、何故か心に残ります。山を下り、次の目的地「奈良薬事研究センター」へ。お酒のいい匂いが漂う酒蔵の横を通り抜け、古い町並みが残る通りは懐かしい雰囲気です。センターでは庭の薬草の説明を受け、また、カリン酒や、カリンシロップ、ドクダミ茶をご馳走になりました。ちなみにドクダミ茶はほんのりと甘くてとってもおいしかったです。

心配だった雨も大した事もなく、楽しく、ゆったりとした日程の1日を過ごす事が出来ました。



葛城山追憶

4月19日の例会行事「葛城山のカタクリとショウジョウバカマ」は参加者から「初めて自生地を見た」と感動的な感想を戴き、当日の案内を務めた私もうれしく思いました。17℃以上に気温が上がらないと開花しない生態的条件に合ったのか、当日はカタクリ・ショウジョウバカマともに満開で観察できたのである。

今年は、五日間ほど気温が遅れていると聞いて、友人は午後の登山を勧めてくれたが、当日になって午後の降水確率が高くなり予定通りに登山したのが、「人と自然の会」に幸運をもたらした。

我々と同じ日に、キャノンが撮影会をやっており、心ある人が注意を促してくれていた。

午後の薬事指導所では、傘下の観察となったが、記念品のウイキョーが発芽して、定植を待っている時期となった。



春日大社と藤（ノダフジ）

寺田正博

大化の改新の立役者中臣鎌足は669年、死の前日に天智天皇から藤原の姓を授けられた。フジの生える原、藤原が重要であったからと思われる。その藤原は大和三山に囲まれた藤原京のあった付近とされている。現在の橿原市高殿町付近。

藤原鎌足が祖となった藤原氏は768年に奈良の春日山に春日神社を建てる。春日山にもフジが多く、フジは藤原氏のシンボルとされ、その実用性からも大切にされたことによると思われる。創立年代については、鎌倉初期に書かれた現存最古の由緒記「古社記」には、四所神殿の創建を奈良時代、称徳天皇の神護景雲二年（768）と記されています。しかし諸説があるようです。祭神は、本殿左（向かって右）より、第一殿 武甕槌命、第二殿 経津主命、第三殿 天児屋根命、第四殿 比売神、の藤原氏の遠祖とされている四神が祀られています。

社紋「下り藤紋」は江戸前期に神紋として定紋化していたようです。

藤は神社の境内に古くから自生し、藤原氏の藤も意識され次第に定紋化されてきた。御巫の簪には藤の造花をつけているし、若宮おん祭の「日の使」の冠にも藤の造花がつけられている。

境内には「砂ずりの藤」と呼ばれる花房が1メートルにもなる藤がある。砂にすれるところからこの名がある。ノダフジの変種といわれている。摂関近衛家からの献木と伝えられ「春日権現験記」にも書かれている古い藤、樹齢は七百年以上といわれる。

フジの実用面からみると、フジのつるは日本人の生活に重要な役割を果たしてきた。日本の住まいを特色づける畳には、黒いへりがある。現在のナイロン製に替わるまでは、そのへりにはフジの布が用いられてきた。

藤布は樹皮をはぎ、表皮をはぎ、表皮を除いた内皮を藁灰で半日ほど煮て、清流でさらし、ドロドロをしごいて繊維をとり、布に織った。丈夫で、野良着や運搬袋、豆腐のこし袋、せいろの中敷布などに用いられた。その他、網、綱等々、種々利用された。

花芽、新芽は食用にもされ炊き込みご飯にもされている。

フジ（ノダフジ）*Wistaria floribunda* (Wild) DC マメ科

各地の山野に生え、また鑑賞用として庭園に植えられているつる性の落葉低木、幹は著しく長くのびて分枝し、右巻きに他物に巻きつく、葉は互生で有柄の奇数羽状複葉、等々〔日本名〕野田藤の意味で、野田は大阪の地名で、昔フジの名所であった。

フジは吹き散るの意味であるといわれている。語源には種々異説がある。

類似種にヤマフジがあるが幹は左巻きであり、公園などで栽培されているフジはヤマフジの長い台木に接いでいるものがあり、幹とつるが逆巻きのものがある。

引用参考文献 「春日大社のご由緒」春日大社 「植物と行事」湯浅浩史

「有用草木博物事典」草川俊 「牧野新日本植物図鑑」 「植物観察事典」岡村はた 他

ネイチャー なら
奈良・人と自然の会
第10回 東海自然歩道・自然観察会のご案内

女人高野「室生寺」よりスギの巨樹が林立する龍穴神社を経て、宇野川沿いに本シリーズでは最高所・標高 810 m のクマタワに向います。峠を過ぎれば室生火山群を仰ぎながら新緑の済浄坊溪谷の溪流を渡り太良路へ。

〈コース名〉 ⑩ 奥香落 (おくこうち) [14 km]

〈日 時〉 6月8日(日) 9時20分 集合

〈集合場所〉 近鉄室生口大野 : 改札口 (西大寺8:24発)

近鉄ナンバ〔奈良行快速〕8:04発…鶴橋8:10乗換〔宇治山田行急行〕8:18発…八木8:50…室生口大野9:10

〈行 程〉 室生口大野…龍穴神社～クマタワ～済浄坊溪谷～太良路…近鉄名張

〈担 当〉

勝田 均

寺田正博 (

弓場厚次

ネイチャー なら
奈良・人と自然の会
6月度例会のご案内

- 1 日時 6月15日(日)AM10:00
- 2 集合場所 近鉄奈良駅 行基菩薩像前
- 3 場所 奈良市内 黒髪山キャンプフィールド
- 4 準備 工具は準備してありますが、足りない場合もありますので、お持ちの方はご持参ください。
- 5 その他 今回は、6月28日の奈良県環境フェアーの準備会も兼ねていますので、当日参加できる方は、打ち合わせのつもりでご参加ください。尚、短時間で工作できるもの、比較的簡単に材料入手可能な物等皆様のノウハウもご披露ください。

担当 樋口 善雄

ネイチャー なら
奈良・人と自然の会
第11回 東海自然歩道・自然観察会のご案内

第一回シリーズの最終コース。奈良と三重の県境、曽爾高原に新緑が一面を覆う草原は、秋のススキとは一味違う世界。お亀池湿地帯のサギスゲやカワラナデシコも美しく、亀山峠を超えて池ノ平高原から中太郎生へ。

〈コース名〉 ⑪ 曽爾高原 [8 km]

〈日 時〉 7月2日(水) 8時50分 集合 (時間厳守)

〈集合場所〉 近鉄名張駅: 西口改札 (三重交通バス・曽爾方面乗場口)

近鉄ナンバ〔奈良行快速〕7:31発…鶴橋7:36乗換〔松阪行区快〕7:41発…八木8:16…名張8:47

* 西大寺〔権原神宮前行各停〕7:37発…八木8:07乗換

〈行 程〉 近鉄名張…太良路～国立曽爾自然の家～亀山峠～中太郎生…近鉄名張

〈担 当〉

西谷範子

寺田正博

弓場厚次

お知らせと協力依頼(環境フェア出展)

平成15年度「環境フェア」が、奈良県環境フォーラム主催で施行されます。当会も「自然工作室」で出展することにしました。～みんなでとめよう温暖化～がスローガンです。出展スペース等は分かり次第連絡いたしますので、当日出席できる方は、お知らせください。

日時：6月28日(土) 9:30～16:30

場所：広域地場産業振興センター(JR 高田駅すぐ)

大ホール 展示ホールほか

出展：自然工作(自然の素材 枝 木片)を使ったクラフト

担当：樋口 善雄

第2回通常総会 報告

5月11日(日)午後1時より国際奈良学セミナーハウスにおいて第2回通常総会を開催致しました。総会に先立ち午前中は10時より例会を、樋口さんの担当で小雨の降る奈良公園の自然観察会を実施し、奈良公園では珍しい真っ白い小さな花をつけたナンジャモンジャ(ヒトツバタゴ)やスギ科のコウヨウザン(オランダモミ)を観察しながら会場のセミナーハウスに入りました。

通常総会には5月2日現在、会員88名のうち、出席者が23名と委任状による出席者が58名の合計81名で、大寺さんの司会で総会をスタート致しました。開会にあたり川井会長よりご挨拶をいただいた後、出口さんが議長に選出され、議事に入りました。

第1号議案 第2期(2002年4月～2003年3月)の事業報告及び会計収支報告の承認の件

第2号議案 第3期(2003年4月～2004年3月)の事業予定及び収支予算案の承認の件

第3号議案 会則一部改定の件

第4号議案 役員退任に伴う役員補充候補選任の件

以上の4件の議題について、各担当から説明・報告があり、提案どおり全て可決されました。

新しく役員として、幹事に 樋口善雄、大石門三、阿部和生 監査には 有本倍美 の方々が新任されました。また、副会長・有本倍美さんの幹事退任に伴い、川井会長から副会長に豊島すみ子さんが指名を受けられました。

今年度は会員も大幅に増員となり、会員相互の理解を深め、資質の向上を目指した活動とともに、地域社会に貢献の出来る事業を検討し、公共的な活動への参加を進めましょう。

なお、総会終了後 予て機関紙でもご案内しておりました 奈良・人と自然の会 のエンブレム・ロゴマークについて3名の方より応募があり、総会に参加された方より投票いただいた結果、例会では既にお馴染みの寺田さんの作品が選ばれました。ネイチャーな らの会旗として近日、お披露目したいと思います。

(弓場 厚次 記)

ネイチャーなら



奈良・人と自然の会

NatureのN

NaraのN

実生の新芽

会旗

地色 緑 青丹よし奈良の都

文字 朱 丹色

＜「奈良・人と自然の会」の文字は有本倍美氏によるものです＞

2003年5月度定例幹事会報告

- 1、日時 : 2003年5月2日(金)pm6:00~9:00
- 2、場所 : 畝傍 奈良県社会福祉センター
- 3、出席者 : 川井、有本、樋口、寺田、弓場、小山、豊島、大寺
- 4、議事 :

「報告事項」

- ①会員動向他 : 会員73名(会費納入者) 登録者88名 (豊島)
- ②第7回東海自然歩道 額井岳コース 参加者25名 (川井)
- ③月例行事 葛城山 参加者18名 (樋口)
- ④活動フィールド候補地視察 (寺田、弓場、川井、大石)
 - ・生駒市北田原の里山 : 足の便が悪い、水がない等により断念したい。
 - ・黒髪山キャンプフィールド : 工作教室として、前向きに考える。
- ⑤会員アンケート中間報告 発送数89名 回答55名
行事については全員ほぼ満足していた

「討議事項」

- ◎5、6月度行事予定の確認 (企画)
 - 5月11日(日)第2回総会
 - 6月8日(日)第9回東海自然歩道(奥香落)
 - 6月月例行事 「クラフト教室」 6月15日
場所 : 奈良市黒髪山キャンプフィールド
 - 7月月例行事 昆虫関係(あやめ池河合先生)
 - 8月月例行事 8月18日(月) 一泊予定

編集後記

各部の決定事項や連絡事項および投稿は6月20日までに下記までお送りください。

連絡先 : 勝田 均

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫